

## 令和2年度きのくにコミュニティスクールの推進に係る研修会 (日高の部)

1. 日 時 令和3年1月8日(金) 13時30分～16時30分
2. 場 所 日高総合庁舎 別館2階大会議室
3. 参加者 県CSマイスター、市町教育委員会指導主事・社会教育主事、  
学校運営協議会関係者 等 合計28名

### 4. ねらいと成果・課題

#### (1) ねらい

コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進の理解を深め、持続可能な「きのくにコミュニティスクール」の仕組みづくりにつなげる。

#### (2) 成果

各市町の取組状況の報告をとおして、日高町での研修のように、教育委員会関係者だけでなく、外部の関係者とともに「きのくにコミュニティスクール」の取組について考える研修の方法が共有できた。また、幼小中で1つの学校運営協議会を組織し、各校の分科会をつくっている御坊市や、ジュニアリーダークラブの取組と学校のカリキュラムを連動させようとしている由良町、地域の商工会と中学校のキャリア教育を連携させようとしているみなべ町など、既存の取組を活用するヒントを共有することができた。

協議では、河内長野市の取組もふまえた上で、各市町が学校運営協議会や地域学校協働活動に対して助言していくための具体的な方針について考え、まとめることができた。

#### (3) 課題

これまでの取組の進み方や自治体の規模に違いがあることから、共通の枠組みを設定することは難しい。各市町・学校におけるコミュニティ・スクールのスタイルを考えていく必要性を発信し、助言を続けていくことが重要である。

### 5. 研修内容

#### ◆日高地方各市町の連携・協働状況の交流 (御坊市、美浜町、日高町、由良町、印南町、みなべ町、日高川町)

＜コーディネーター＞ 紀南教育事務所 社会教育主事 井戸 悠貴

#### ○各市町の状況

- ・規模の小さい町では、学校教育と社会教育の担当課が同じで、協力しながら業務を進めることができています。担当課が分かれている市町では、意識的に交流の機会を設けない限り、関わりが少なくなる。
- ・教育委員会職員と社会教育委員等の関係者が合同で、「きのくにコミュニティスクール」の仕組みについての理解を促進する研修を行っている。
- ・これまでの「共育コミュニティ」から変わる部分と変わらない部分について、教職員の理解を進めている。
- ・ジュニアリーダークラブや公民館・地域の商工会等の取組と学校のカリキュラムとを連動させている。

## ◆講演

「コミュニティ・スクール」 ～子どもたちの未来のために～

〈講師〉 文部科学省CSマイスター

和歌山県CSマイスター 大谷 裕美子 氏

### ○コミュニティ・スクールと地域学校協働活動

これまで学校と地域がそれぞれに取り組んできているが、互いに目標を共有しながら「緩やかなネットワーク」をつくり、「今まであったものが同じ目標のもとでつながり合う」という意識を進めたい。

地域学校協働活動については、「組織や団体をつくらなければ」と考えず、個人・団体に関わらず、「地域の方が行う活動」という捉え方をすると良い。そうすることで、多くの地域住民等が気軽に参画できる雰囲気をつくることのできる。

### ○学校運営協議会と地域学校協働活動は電動自転車の両輪

#### ・前輪：学校運営協議会

学校運営協議会では、学校や地域で「どんな子供を育てていくか」を話し合い、合議体として意思決定を行う。取組の報告会になってしまわないことが重要。

#### ・後輪：地域学校協働活動

学校運営協議会での意思決定をもとに、実際に活動する団体・個人と緩やかにつながり、学校運営協議会委員も一緒に汗を流しながら活動する。

#### ・チェーンやペダル：コーディネーター（地域学校協働活動推進員）

学校運営協議会と地域学校協働活動を緩やかにつなぐ役割として、コーディネーター（地域学校協働活動推進員）の存在は不可欠。

#### ・サドル：未来に向かって進む子供たち

学校・家庭・地域の大人の支えを受けて、未来に向かって進んでいく。大人の立場が違って、育てていく子供たちは同じ。子供たちの進行方向（ビジョンや目標）を全員が知った上で活動して行くことが重要。

#### ・ハンドルとブレーキ：学校長

学校の最高責任者は学校長。進行方向やスピードの微調整を最終的に行うのは学校。

#### ・電動アシスト機能：教育委員会

地域・学校がスムーズに活動できるように支援する役割。財政支援や制度設計等、困難が起こったときの支援体制を整える。

### ○「社会に開かれた教育課程」とは、「地域とつながる学校教育」の実現

必要な時に力を貸してもらえる信頼関係をつくるためには、小さな成功体験の積み重ねが重要。失敗があっても改善方法を一緒に考えて修正していく地道な取組が次の成功体験につながる。

学校と地域がお互いに「できること」を任せ、「学校と地域が一緒にできること」「地域だからできること」「学校だからできること」を考えることで、地域の強みを生かしたコミュニティ・スクールの取組につながる。コミュニティ・スクールには決まった枠組みがなく、地域性の違いに合わせて形ややり方を変えていく余地がある。

教職員にも「無関係」と思わせない工夫が必要。数人ずつ学校運営協議会に出席したり、出席者からの情報提供を続けることで、成功体験を共有できるようにしていく。

○河内長野市での具体的な取組

- ・大人が出会い、学び合う機会づくり
- ・顔と名前が一致する関係づくり → 地域の方の顔写真やメッセージを校内に掲示
- ・子供も当事者にするしかけ → 地域の方への連絡は子供が届ける
- ・日常の取組を材料にした授業づくり → 町探検を地域の方と一緒に
- ・既存の取組 + one → 終業式 + 地域の方への感謝の会
- ・地域住民を巻き込むハードルの低い取組 → 休憩時間の縄跳びの回数を地域の方に数えてもらう
- ・今だからできる子供の心に寄り添う取組 → 学校に行けない間に千羽鶴を折るプロジェクト

○子供たちが「何を学ぶか」 + 「誰と学ぶか」

子供は「自分をつくるため」に学校に行く。地域のたくさんの大人との出会いが心豊かな子供を育てるきっかけになり、子供の学びを支える存在となる。学校での取組は、必ず地域づくりにつながっている。コミュニティ・スクールでは、一人の子供に関わる大人の数を増やすことができる。

◆協議・講評

「まちの状況」と「理想のまち」から考える「これからの行動」

<講評>

文部科学省CSマイスター

和歌山県CSマイスター

大谷 裕美子 氏

○グループ協議

参加者の居住地ごとにグループを構成し、まちの状況や住民として考える理想のまちについて意見を出す。住民として考える現状に対して、市町担当者としてどのような行動をしていけるかを協議し、方針をまとめる。

R3.1.8(金) 河内市 有田町 長生町	瑞穂町
<p><b>今の現状</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢化 → 果樹園地 → 空き家 増加</li> <li>・観光客の増加 → 観光客の増加</li> <li>・若年層の減少 → 大学の進学率の向上</li> <li>・中核的産業(他) → (人口の減少)</li> <li>・町内会 → (町内会) → (町内会)</li> <li>・若年層の減少 → (町内会) → (町内会)</li> </ul>	<p><b>理想のまち</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・若年層の増加 → (町内会) → (町内会)</li> <li>・若年層の増加 → (町内会) → (町内会)</li> <li>・若年層の増加 → (町内会) → (町内会)</li> <li>・若年層の増加 → (町内会) → (町内会)</li> <li>・若年層の増加 → (町内会) → (町内会)</li> </ul>
<p><b>これからの行動</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・町内会 → (町内会) → (町内会)</li> <li>・町内会 → (町内会) → (町内会)</li> <li>・町内会 → (町内会) → (町内会)</li> <li>・町内会 → (町内会) → (町内会)</li> <li>・町内会 → (町内会) → (町内会)</li> </ul>	<p><b>協議内容</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・協議内容 → (町内会) → (町内会)</li> <li>・協議内容 → (町内会) → (町内会)</li> <li>・協議内容 → (町内会) → (町内会)</li> <li>・協議内容 → (町内会) → (町内会)</li> <li>・協議内容 → (町内会) → (町内会)</li> </ul>



○講評

これまでの「当たり前」が「当たり前」ではなくなってきた。「変わること」が当たり前の世の中に対応していくためには、たくさんの選択肢から選ぶ経験を積み重ねることや、多くの価値観に触れる機会を設けることが必要。コミュニティ・スクールの価値はここにある。「人材」を「人財」としていける取組を考え、試してみたい。

## コミュニティ・スクール(学校運営協議会)に関する研修会アンケート【集計結果】

研修会名	きのくにコミュニティスクールの推進に係る研修会(日高の部)
研修実施団体名	和歌山県教育庁紀南教育事務所
研修実施日	平成3年1月8日(金)
CSマイスター等	大谷 裕美子 氏

1. 所属、職種の状況について当てはまるものに○をつけてください。

1.教職員	2
2.CS推進員	1
3.教育委員会事務局(学校教育)	7
4.教育委員会事務局(社会教育)	2
5.学校運営協議会委員	4
6.公民館職員	1
7.地域学校協働活動推進員(コーディネーター)	0
8.その他	1

アンケート回収数  
18 名

2. 本日の研修会に参加する前の状況で、もっとも近いものを1つずつ選んで○をつけてください。

	大いに理解していた	おおむね理解していた	あまり理解していなかった	理解していなかった
コミュニティ・スクール(学校運営協議会制度)についての課題を明確に認識していた。	2	11	5	0

3. 本日の研修会に参加してもっとも近いものを1つずつ選んで○をつけてください。

	大いに参考になった	おおむね参考になった	あまり参考にらなかった	参考にらなかった
①講演について	5	12	1	0
②協議について	11	7	0	0

	大いにそう思う	おおむねそう思う	あまり思わない	思わない
③講演を通してコミュニティ・スクール(学校運営協議会制度)の推進についての展望が開けましたか。	5	12	1	0
④協議を通して、今後、それぞれの立場において、コミュニティ・スクールに関わる取組を積極的に推進していこうと思えますか。	11	7	0	0

4. コミュニティ・スクールに関わる取組を進めるに当たって課題となっていることについて当てはまるものを選んで○をつけてください。(いくつでもかまいません)

	割合	
①教職員、地域、保護者にあまり知られていない	16	89%
②地域と学校の協議が不十分である	13	72%
③委員やボランティア人材の確保ができない	11	61%
④活動費や委員報酬の支払いなど財政的な懸念がある	5	28%
⑤教職員の勤務負担が増加する	7	39%
⑥学校の持つ課題を公表してしまう懸念がある	2	11%
⑦地域とのトラブルや守秘義務等に懸念がある	5	28%
⑧その他( )	1	6%

## 5. 御感想、御提案などがありましたら御記入ください。

- ・大谷先生よりいろんな事例を教えていただき、CSの役割の重要性がよくわかった。
- ・大谷先生のお話は大変分かりやすく、取組の参考になることが多かった。
- ・課題解決のための策はなかなか出て来ないが出来ることから地道に取り組んでいくことが必要だ。
- ・地域づくりは学校教育・社会教育の課題だと再確認した。
- ・大谷先生のお話を聞いて不易と流行の部分で当たり前のことを当たり前と思わず、今を変える努力を。
- ・地域の方が学校でなわとびの回数を数えたりするなどの事例があった。  
まずは小さなことからでいいので学校の活動に入ってもらおう。  
コミスクの活動がぐっと身近なことからでいいんだと思えた。
- ・CSの制度、活動の背景、考え方とても勉強になった。
- ・「不易流行」「現実を見よ」というのはとても参考になった。
- ・私の町はあまり進んでいないのでこちらの地方が大変うらやましく思った。
- ・CS関係の研修等の案内を学校、社会教育の両方に周知していきたい。

